

## 2018(H30)シカ年度 エゾシカ捕獲事業計画案(遺産地域内)

### 1. 目的

エゾシカの個体数調整を実施することにより、知床国立公園および知床世界自然遺産地域におけるエゾシカの過増加による生態系への深刻な悪影響の緩和を図る。

### 2. 捕獲実施場所

斜里町幌別-岩尾別地区、羅臼町ルサー相泊地区 及び 知床岬地区

### 3. 捕獲実施期間

平成 31(2019)年1月～6月

### 4. 事業内容

#### (1) 幌別-岩尾別地区

捕獲目標頭数:計125頭

##### ①仕切柵を用いた囲いわな式捕獲(岩尾別台地上)

位置図1の①の箇所に設置されている大型仕切柵を囲いわなとして使用し、エゾシカを捕獲する。仕切柵付近においてヒグマの活動が確認された場合は捕獲を一旦中止する。

- ・仕切柵内外のエゾシカの誘引状況を観察するための自動撮影カメラを5台程度設置する。
- ・捕獲用扉付近において3月下旬までの期間に乾草ブロックによる給餌(1回30kg程度、全8回程度)を行う。
- ・自動撮影カメラによりエゾシカの誘引状況を観察し、捕獲の実施時期や時間を検討する。
- ・1～3月の期間に5回程度捕獲作業(捕獲成功に至らなかったケースを含む)を行う。捕獲されたエゾシカは原則として銃等による止め刺し後に死体で搬出し、利活用施設に無償にて引き渡す。

##### ②くくりわなによる捕獲(岩尾別台地上、幌別川河口周辺、プユニ岬周辺)

くくりわな計 14 基程度によりエゾシカを捕獲する。わな付近でヒグマの活動が確認された場合は、捕獲を一旦中止する。

- ・1～3月の間、岩尾別台地上、幌別川河口周辺、プユニ岬周辺等の林内等(位置図1の②)に、くくりわなを 14 基程度設置する。
- ・捕獲作業は 35 回程度を想定。捕獲したエゾシカは電気等による止め刺し後、無償にて利活用施設に引き渡す。

##### ③小型箱わなによる捕獲(幌別川河口周辺、プユニ岬周辺、幌別森林 1ha 柵周辺)

箱わな計6基程度によりエゾシカを捕獲する。

- 1～3月の間、幌別川河口周辺、プユニ岬周辺、幌別森林 1ha 柵周辺の林内等(位置図1の③)に、箱わなを合計6基程度設置する。わな付近でヒグマの活動が確認された場合は、捕獲を一旦中止する。
- 餌付けは乾草ブロック等のヒグマを誘引する恐れのない飼料により、各わな1回当たり8kg 程度、全 20 回程度行う。
- 捕獲作業は 40 回程度を想定。捕獲したエゾシカは電気等による止め刺し後、無償にて利活用施設に引き渡す。
- 捕獲個体の入っている箱わなの周囲から離れない別個体がいた場合は、周囲の安全確認の上、銃による捕獲も可とする。

#### **④岩尾別ふ化場進入路付近における待機狙撃(待ち伏せ式誘引狙撃)による捕獲**

岩尾別ふ化場進入路付近(位置図1の④)において、餌により誘引したエゾシカを、林縁等に設置したブラインドからの待ち伏せ狙撃を基本に捕獲する。業務実施区間付近でヒグマの活動が確認された場合は、一旦捕獲を中止する。

- 岩尾別橋から岩尾別川河口へ至る通路沿線において、1～3月の間に、3箇所程度餌付け箇所を設定し、20 回程度乾草ブロックによる餌付け(1箇所につき1回 15kg 程度)を行う。
- 1月下旬～3月の間に計8回程度(想定)、ライフル銃によるエゾシカの捕獲を行う。少数のエゾシカが誘引されている餌付け箇所において、ブラインドの内部や陰等から狙撃して全頭を捕獲することを目指す。
- 多数が誘引され、全頭捕獲が困難と予測された場合は射撃を行わない。
- 捕獲したエゾシカは速やかに回収し、無償にて利活用施設に引き渡す。

#### **⑤岩尾別台地上における待機狙撃(待ち伏せ式誘引狙撃)による捕獲**

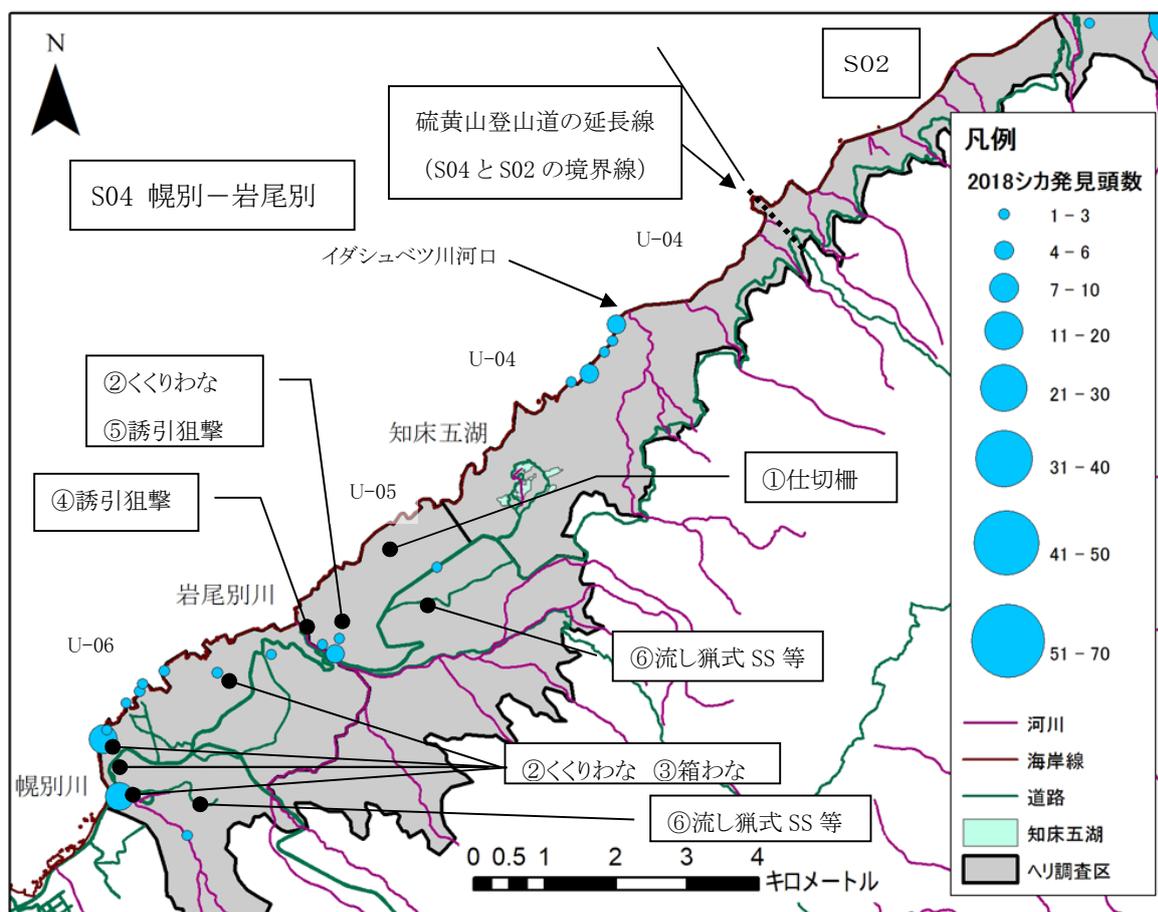
岩尾別台地上(位置図1の⑤)において、餌により誘引したエゾシカを、林内のハイシートからの待ち伏せ狙撃を基本に捕獲する。

- 実施期間は3月～4月中旬とする。
- 岩尾別台地上の3箇所程度にハイシートを設置する。設置に当たっては射撃方向の安全に留意する。
- 各ハイシート設置場所から狙撃可能な地点を誘引地に定め、乾草ブロックによる餌付けを各地点で1回当たり 15kg 程度、合計6回程度行う。
- 捕獲作業は3名程度で期間中に計8回程度(想定)実施する。
- 捕獲したエゾシカは速やかに回収し、無償にて利活用施設に引き渡す。

#### **⑥しれとこ 100 平方メートル運動地内における流し猟式SS・待機狙撃等による捕獲**

幌別台地上及び岩尾別台地上のしれとこ 100 平方メートル運動地内の作業道沿い(位置図1の⑥)において、流し猟式シャープシューティング、待機狙撃および忍び猟等によるエゾシカ捕獲を行う。

- ・実施期間は雪解け後、5～6月とする。
- ・捕獲作業は4名程度でライフル銃により期間中に計4回程度(想定)実施する。
- ・実施日時について事前に関係機関等に連絡を行う。
- ・捕獲実施に当たっては、事前に作業道上の実施区間を巡回するとともに、実施区間の両端に監視員を配置し、車両及び人の往来が無いようにする。
- ・捕獲したエゾシカは速やかに回収し、無償にて利活用施設に引き渡す。



位置図1. 幌別-岩尾別地区における2018年3月航空調査時のエゾシカ発見位置とH30シカ年度の捕獲実施予定箇所.

## (2)ルサ-相泊地区

羅臼町のルサ地区～相泊地区の位置図2の箇所において、以下のとおりエゾシカの捕獲を行う。実施に当たっては、地域住民や漁業者その他との軋轢を生じないよう配慮し、必要に応じて除雪を行う。捕獲目標頭数は計75頭。

### ①囲いわなの設置及び捕獲(相泊)

体重計トリガー方式の小型囲いわな1基によりエゾシカを捕獲する。わな付近でヒグマの活動が確認された場合は、一旦稼働を中止する。

- ・羅臼町相泊地区のアイドマリ川河畔(位置図2の①)において小型囲いわなの設置を行う。
- ・1～3月の間、わな内部及び周辺に乾草ブロックによる餌付け(1回 30kg 程度、計 20 回程度)を行い、エゾシカを誘引する。
- ・捕獲したエゾシカは原則生体で搬出し、無償で利活用施設に引き渡す。

### ②くりわな及び小型箱わなによる捕獲(相泊、昆布浜、ルサ)

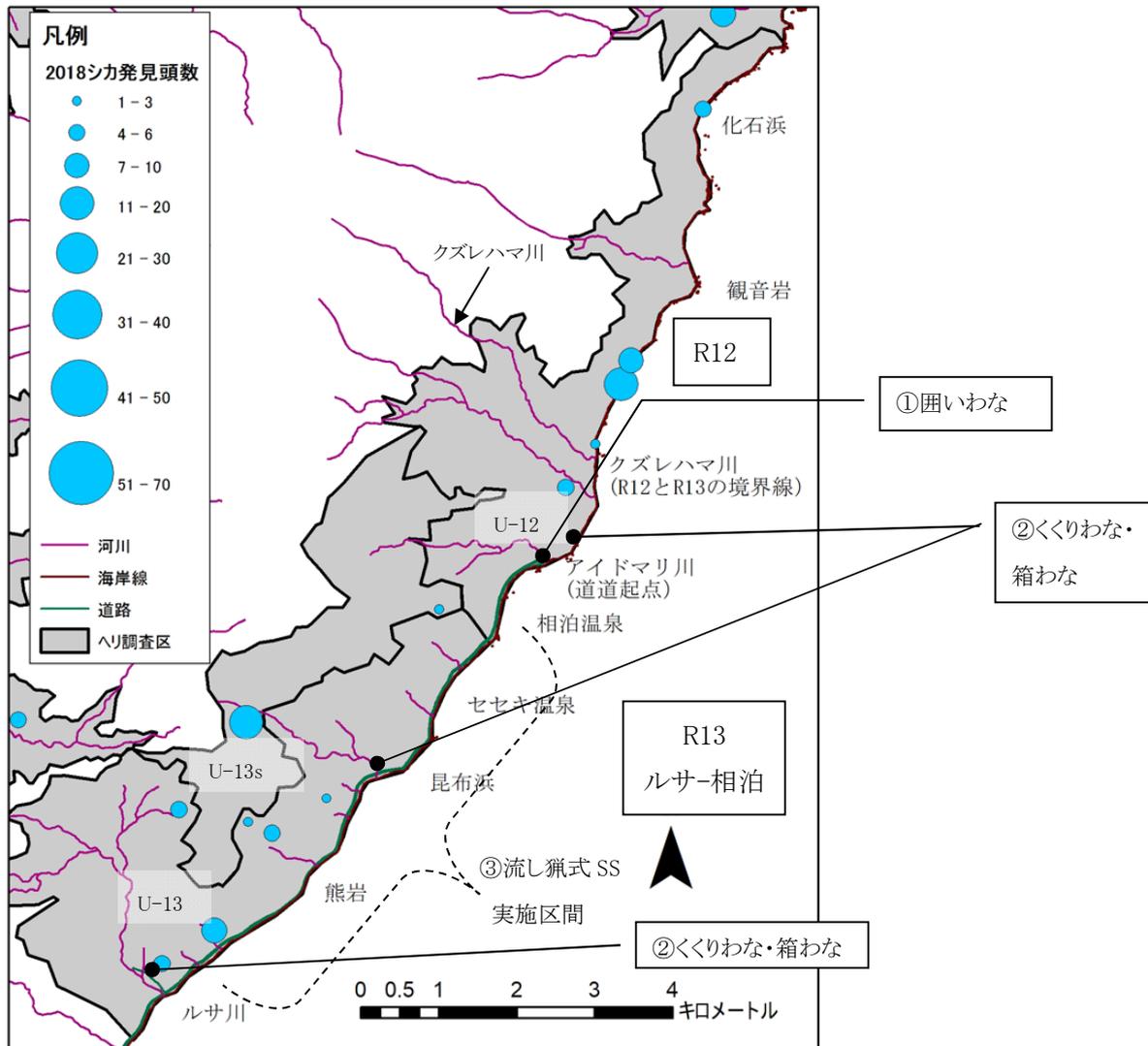
以下のとおり、位置図2の②の箇所において、くりわな 18 基程度及び箱わな4基程度によりエゾシカを捕獲する。わな付近でヒグマの活動が確認された場合は、一旦稼働を中止する。

- ・1～3月の間、箱わな内部及び周辺に乾草ブロックによる餌付け(わな1基につき1回5kg 程度、計 20 回程度)を行い、エゾシカを誘引する。
- ・捕獲したエゾシカは電気等による止め刺し後、無償で利活用施設に引き渡す。

### ③道道における流し猟式シャープシューティングによる捕獲

以下のとおり、位置図2の③の区間において、流し猟式シャープシューティングによるエゾシカ捕獲を行う。

- ・道道知床公園羅臼線のうち北浜～相泊の約 7.4km 区間において、道路沿いに 14 箇所程度の餌付け箇所を設定し、3～4月に乾草ブロックによる餌付けを行う。
- ・捕獲実施期間は、道路沿いの急斜面にシカが集合する3月中旬～4月とする。捕獲作業は射手1名程度でライフル銃により、期間中に計6～8回程度実施する。
- ・捕獲実施日時については事前に関係機関や住民に周知する。
- ・捕獲実施に当たっては道路管理者と協議し、道路を通行止めとした上で、十分な安全管理体制を整備して実施する。
- ・捕獲したエゾシカは速やかに回収し、無償にて利活用施設の運搬車両に引き渡す。



位置図 2. ルサー相泊地区における 2018 年 3 月航空カウント調査時のエゾシカ発見位置と H30 シカ年度シカ捕獲実施予定箇所.

### (3) 知床岬地区

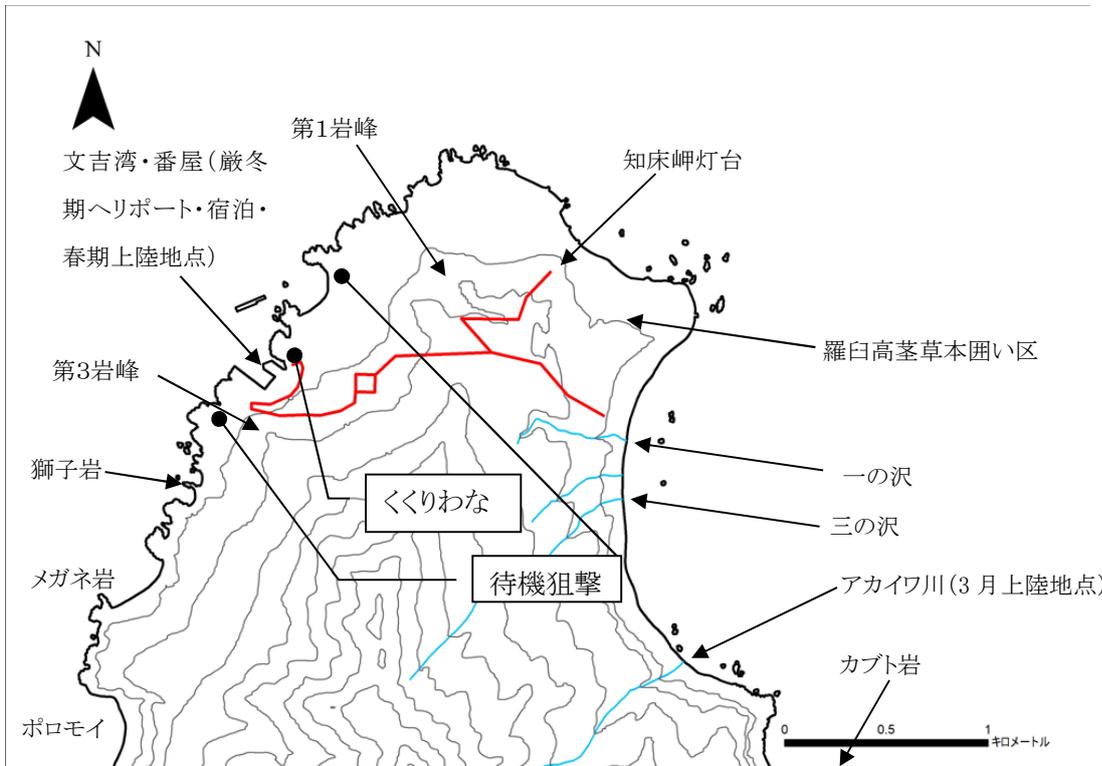
知床岬先端部の位置図3の区域において、以下のとおりエゾシカ捕獲を実施する。捕獲目標頭数は計20頭。

#### ① 厳冬期の捕獲(ヘリコプター利用)

2～3月の間に、くくりわな及び待機狙撃(4～7人程度、3泊4日程度の宿泊を伴う)によるエゾシカ捕獲を1回実施する。知床岬地区への人員輸送はヘリコプターにより、知床岬地区での宿泊は番屋を借用する。

#### ② 春期の捕獲(船舶利用)

4月下旬～5月の間に、位置図3の区域において、2人程度での待機狙撃、忍び猟等(1泊2日程度の宿泊を伴う)によるエゾシカ捕獲を3～4回程度実施する。知床岬地区への人員輸送は船舶により、知床岬地区での宿泊は番屋倉庫等を借用する。最終捕獲後、捕獲したエゾシカを回収し、レンダリング業者に引き渡す。



位置図3. 知床岬先端部における H30 シカ年度シカ捕獲実施予定箇所(赤線が捕獲補助用の仕切柵).